

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立椴法華小学校 学級数 5（うち特支1）

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

豊かな表現力と対話力を身に付け、共に高め合う子どもの育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

2月に実施した標準学力検査の結果から、国語については読み取りや言語事項、算数については図形や数量関係が弱いという実態が明らかになった。

2 取組の位置付け

今年度からの新たな取組として家庭の協力を仰ぎながら生活リズムチェックシート「本、だいすき！」を全校で行う。また、現行の朝の活動時間「とどっこタイム」の内容について見直しを図っていく。

3 取組の方法

(1) 生活リズムチェックシート「本、だいすき！」

学校では週1回朝読書の時間を確保しているが、家庭での読書は十分とは言えない。家庭での読書を定着させると共に規則正しい生活が送れることをねらい、読んだ本の題名、読んだ時間やページ数、寝た時刻などを記録するシートに記入してもらっている。6月下旬から休日も含め毎日行っている。

(2) 「とどっこタイム」の見直し

朝の活動時間「とどっこタイム」に週2回計算練習の時間（計算エース）を取り入れてから、一定の成果が見られている。そこで、プリントの改訂を行い、1枚のプリントの中で文章題も解けるようにした。今後、チャレンジテストや学力テストの問題も盛り込んでいくと共に、不定期ではあるが、漢字についても計算同様の取組をしていく予定である。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・「本，だいすき！」カードを断続的に読書月間である11月と，冬季休業中に取り組んだ。

(成果) → 書名や読書時間，ページ数の他，就寝時刻，テレビを見た時間等の記入もあるため，毎日の取組となると大変だという声も聞かれた。マナーをさける意味でも，取り組む期間を決めて続けてきた。第1期から第4期に分けて2週間単位で取り組んだ，

また，11月の読書月間では4週間，冬季休業中は2週間取り組み，家庭と共に読書への関心を高めることができた。

- ・とどっこタイム「漢字エース」の取組を開始した。

(成果) → 10月から月曜日のとどっこタイムを「漢字エース」の時間に充てている。初めての取組ということで，2年生以上一斉に1年生で習う漢字からスタートすることにした。1年生については，ひらがなやかたかなの書き取りからスタートして，それが終わり次第漢字に移行する予定である。

高学年にとっては簡単すぎると思われたが，字の形や筆順，構成を見直す機会になっており，はらいやはね等に気をつけて，じっくりていねいに書くことを意識することができている。

テストの合格を経て進級する形をとっているので，ふだんの練習を軽視しないで，意欲的に取り組む姿が見られる。

この取組を継続することで，漢字の読み書きの力の向上が期待できる。

- ・小中の連携をより深め，実態を交流するというこで，11月から不定期に中学校の先生に来校していただき，連携授業（算数科）を行っている。

(成果) → 時間割の組み替えで数学の先生に空き時間を作っていただき，来校してもらっている。次年度お世話になる6年生の実態を見てもらうということもあり，5・6年生の複式学級の算数の時間にTTとして入っていただいている。

複式授業で指導が手薄になりがちな間接指導の場面では特に有効で，支援が必要な児童に適切なフォローをしていただいている。

来校時間が2時間あるので，5・6年生のほか，同様に複式学級である3・4年生の授業に入ってもらうことも多い。また，授業改善のアドバイスもいただけるという利点があることを実感している。

また，小学校からは，中学校がテスト前に行っている放課後学習に出向き，連携・協力している。

○ 教育課程検証の方法

- ・CRTの結果を分析し，それに基づいて，教務部と研究部が連携して検討して，新年度準備委員会に諮っていく予定である。
- ・学校評価の会議の中で出された教育課程に関わる意見を集約して，次年度の方向性を新年度準備委員会で検討していきたい。

